

## 臓腑(肝)

いちばんたいせつなこと

「生理(疏泄・蔵血・筋・目…)があって病理があり病証として分類される」

《肝の生理》(わかる中医学入門 p11～)

### a) 疏泄を主る

疏泄…のびのびと広がる

樹木の生長が盛んで根や枝を条達させる現象に例えて、柔和で舒暢(のびやか)な生理状態を表している

- ・全身の気を運行させる(気機)
- ・精神状態を安定させる(精神)
- ・脾胃の運化・腐熟を助ける(消化)

### b) 血を蔵す

血を貯蔵・補給する

血は臓腑を滋養し、経絡を潤し、百骸に栄養を与え、全身を充実させる

各部の血流量には生理的な活動に応じた変化があり、活動時には大量の血を各部に分布して需要をみたし、休息時や睡眠時には一部の血を肝に貯蔵する

### c) 筋を主る

肝は筋肉の働きを維持する

筋が柔軟で活発に働くためには、津液に潤され陽気に温められる必要がある

そして、陽気・陰・津が三焦に沿ってうまく昇降し、血がスムーズに循環できるのは肝の疏泄機能に負う部分が多い

### d) 目に開竅す

肝は目の働きを維持し、肝の病変は目にあらわれる

目は五臓六腑すべてとつながっているが、肝との関係が最も密接である

肝血の不足ととらえ治療することが多い

五臓六腑之精氣皆上注於目故眼為精之窠…靈樞/大惑論篇

(五臓六腑の精氣は皆上りて目に注ぐ 故に眼は精の窠と為す)

### ❁ 肝の生理的な特性

1 肝は条達を喜み抑うつを悪む

肝為風木之臓、喜条達而惡抑鬱…張景岳

(肝は風木の臓と為し、条達を喜みて抑うつを悪む)

正常状態では、肝気は昇発・柔和・舒暢であり、抑うつも興奮もなく、穏やかに条達する肝気が昇発不及になり鬱結すると胸脇部が脹って痛む・憂うつ・ため息などを呈する

2 肝は剛臓である

肝為剛臓、職司疏泄…林佩琴

肝体陰用陽…葉天士

(肝は剛臓、疏泄を司る)

(肝は陰を体とし陽を用とす)

剛は剛強暴急を意味し、肝の病変は急躁・けいれん・強直・動風など肝陽の過亢による急激・緊張・躁動を呈する症状があらわれやすい

肝は「陰を体とし陽を用とす」と言われ、肝の陰血をもとに陽気が作動し、肝陰の柔潤によって肝陽の剛強を抑制し和らげる

3 肝気は春に通じる

肝は五行の木に属し、肝気は春に旺盛になる

《肝の病理》

a) 疏泄の失調

気機の失調…肝胆の経絡上に張りや痛みがあらわれる

精神の失調…急躁易怒(イライラ・怒りっぽい)、憂うつ感、猜疑心、ため息

消化の失調…脘腹脹満、噯気(ゲップ)、下痢 or 便秘、口苦口粘、嘔吐、消化不良

\* 脾胃との関係が深い

b) 血の不足

血は潤いをあたえるため、不足すれば乾燥があらわれる

肌の乾燥、ドライアイ(目に開竅す)、髪がパサつく(髪は血の余り)、爪がもろい(その華は爪にある)、面色蒼白、月経量少、経血色が薄い、舌質淡白

c) 筋の異常

肝の陰血が不足すると筋の栄養が行われず筋に病変があらわれる

筋肉痛、拘急(ひきつり)、麻木(しびれ)、運動障害

❁ 肝の病理的な特性

1 経絡上にあらわれる

肝経…胸脇部、少腹、陰部

胸脇・少腹の脹痛、月経不順、月経痛、陰部癢痒

胆経…側頭部、耳の周囲、目

片頭痛、耳鳴、突発性難聴、こめかみ・耳周囲の湿疹、目赤腫痛

2 脹る

「脹った痛み、脹って苦しい」

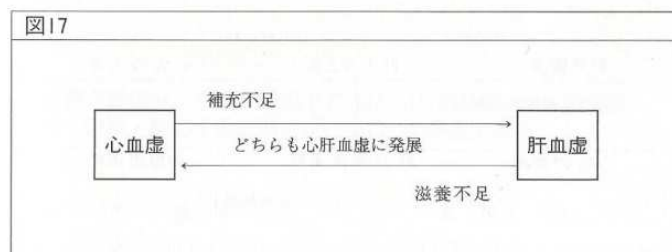
頭脹痛、胸脇脹満(苦満)、腹脹満、乳房脹痛、少腹脹痛

《肝の病証》（わかる中医学入門 p91～）

① 肝血虚

肝の蔵血機能の低下(目、爪、筋)+全身性の血虚症状(顔面蒼白、舌淡白、乾燥)

方剤:四物湯 p156



\* 心肝血虚(不眠、不安、多夢、動悸)…酸棗仁湯 p161

② 肝陰虚

肝血虚 + 虚熱(ほてり)、熱感、舌紅、口乾、ごしんはんねつ五心煩熱、とうかん盗汗、れつもん裂紋

五心煩熱…両手足 + 胸中に煩熱のあるもの

盗汗…寝汗。眠ると汗が出て、目が覚めると止むもの

裂紋…舌体にみられる裂溝

方剤:四物湯 p156

③ 肝気鬱結

疏泄の失調(頭脹痛、胸脇苦満、口苦、脈弦、腹脹満、残便感)

方剤:柴胡疏肝散 p161

④ 肝鬱血虚(血虚気滞)

肝気鬱結 + 肝血虚

上記の他に経前のイライラ・乳房脹痛・倦怠感・嗜眠・下痢

方剤:逍遙散(加味逍遙散) p162

⑤ 肝火上炎(←肝鬱化火←肝気鬱結)

肝気鬱結 + 実熱(イライラ、怒鳴る、頭脹痛、頭のふらつき、面紅、目の充血、突発性難聴、舌苔黄、脈弦数)

方剤:大柴胡湯 p153

⑥ 寒滞肝脈(or 血虚受寒)

肝血虚 + 寒邪(少腹・下肢内側などの寒冷・疼痛。冷えると増強⇔温めると軽減)

方剤:当帰四逆湯(当帰四逆加呉茱萸生姜湯) p155

⑦ 肝陽上亢

肝陰虚 + 実熱(のぼせ・イライラ・顔面紅潮・目の充血など)

きょじつさくざつ虚実錯雑…症状は実熱⇔原因は肝(腎)陰虚

方剤:七物降下湯 p168

✿肝に特徴的なもの

風・风・바람<sup>パラム</sup>・wind・vento・viento・tuuli・blast・gio…

【内風 or 肝風内動】

⑧ 血虚生風(←肝血虚)

血の滋潤・栄養の失調→口や肌の乾燥→乾燥して痒い、落屑<sup>らくせつ</sup>

方剂: 当归飲子 p156

⑨ 熱極生風(←肝火上炎)

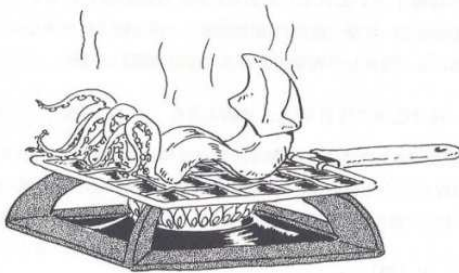
疏泄の失調→滞れば熱(火)を生じる→火の上では風が生じてゆらゆらと揺れている→  
高热・ひきつけ・目が白目をむく・角弓反張

方剂: 羚羊角鈎藤湯<sup>れいようかくこうとうとう</sup> p168

⑩ 肝陽化風(←肝陽上亢←肝腎陰虚)

肝腎の陰の不足→相対的に陽が大きくなる→めまい・耳鳴り・ふるえ・痙攣

方剂: 天麻鈎藤飲<sup>てんまこうとういん</sup> p168 (陰虚が強ければ知柏地黄丸 p158)



解説: 火熱を受けると、するめは動き出す(風症状)。火熱は風を生む作用をもつ。

✿2つの臓腑にまたがるもの

⑪ 心肝火旺

肝火上炎+心火亢盛(動悸・不眠・煩燥・焦燥感 心火亢盛の人は周りが見えない)

方剂: 竜胆瀉肝湯合黄連解毒湯 p152.153 or 一貫堂竜胆瀉肝湯

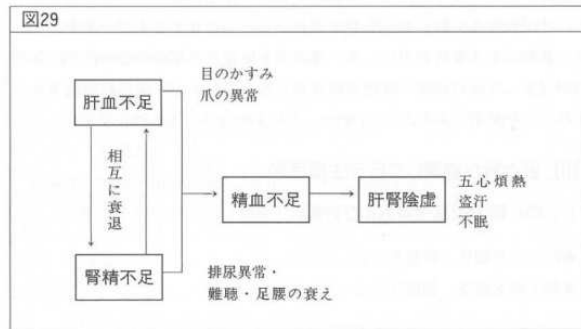
⑫ 肝腎陰虚

肝陰虚+腎の生理の低下<sup>ようしつさんなん</sup>→腰膝酸軟・排尿障害・聴力減退

\* 腎虚には陰虚⇔陽虚の2つがある

陽虚の症状(面色白・冷える・冷えて浮腫む・尿色透明)はみられない

方剂: 六味地黄丸 p158



⑬ 肝気犯胃(肝胃不和)

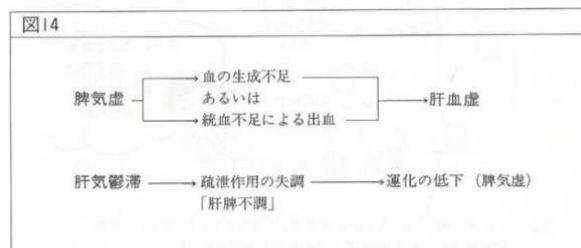
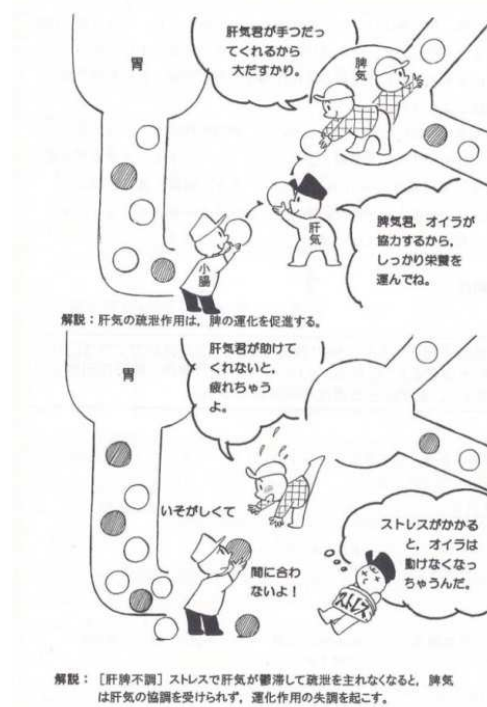
疏泄の失調が胃の生理(受納)を妨げる→嘔気・嘔吐など ベクトルは↑

方剤: <sup>さいこそかんさん</sup>柴胡疏肝散 p161

⑭ 肝気犯脾(肝脾不和)

疏泄の失調が脾の生理(運化)を妨げる→下痢・腹痛・食欲不振など ベクトルは↓

方剤: 四逆散 p161



⑮ 脾虚肝乘

肝気鬱結＋素体脾虚(易疲労、食欲不振、軟便、食後嗜眠、甘味嗜食)

⑬⑭と異なり元々の虚があきらか

方剂:香砂六君子湯 p156、柴芍六君子湯

⑯ 肝胆湿熱

疏泄の失調＋湿熱(口苦口粘、排便不爽、小便濃黄、舌苔<sup>おうじ</sup>黄膩)

酒や脂っこいものの過食による湿聚化熱が主な要因

方剂:茵陳蒿湯 p165・竜胆瀉肝湯 p153

❀2 次的な病理産物がからむもの (わかる中医学入門 p52～)

⑰ <sup>きたいたんぎょう</sup> 氣滞痰凝

肝気鬱結＋痰飲

方剂:半夏厚朴湯 p162

⑱ 氣滞血瘀

肝気鬱結＋血瘀

方剂:<sup>けっぶちくおとう</sup> 血腑逐瘀湯 p162

\* 参考文献

わかる中医学入門	<sup>りょうげん</sup> 燎原
やさしい中医学入門	東洋学術出版社
基礎中医学	燎原
中医病因病機学	東洋学術出版社
中医証候鑑別診断学	人民生成出版社
中医臨床のための方剂学	医歯薬出版
中医証候辨治軌範	人民軍医出版社